

2009年

1月17日（土曜日） - 峯山藩と日本、丹後が有する国づくりの尊い由縁 -

本日、丹波の文化を伝承する会の皆様の主催により「峯山藩フォーラム」が全300人以上、立ち見の方も出るような大勢の参加者の皆さんが来場され、盛大に開催されました。心から感激しお祝いを申し上げます。

峯山藩は、江戸時代、初代京極高通公より12代にわたり、峰山を本拠に治政が続けられた藩で、その間、ちりめん産業の奨励、金刀比羅神社様の創建など今につなげていただく大きな礎が築かれました。今に生きる我々として深く感謝を申し上げます。

私達の丹後地方は、織物やものづくりなどの伝統産業のほか、海山、温泉などの素晴らしい自然環境などの特色を有していますが、特色の大きな柱に、古く古代の時代において大陸からの窓口となり「古代丹後王国」と言われるような繁栄があったとされるわけですが、当時は、日本の中心の一つであったと思うわけです。そして、時代はくだって江戸時代、当時、峯山藩の江戸藩邸は現在の総理大臣官邸のある場所に立地していたということで、小牧元府会議員や相光寺西田ご住職はじめ関係者の皆様のご努力により、総理大臣官邸玄関横に記念の案内碑が平成18年に建立されましたが、このことは、丹後につながる場所が現在の我が国最高の行政府の本拠につながっているというわけで、丹後の近世の歴史も現在の日本の中心に関係していることに、丹後地域が有する不思議な力のようなもの、その由縁の尊さを感じます。

丹波から分国して丹後国が建国されたのが、西暦713年。それゆえ、来る2013年は、丹後建国1300年の大きな建国の節目にあたります。私たちとして、この私たちにとって1300年の大きなお祝いの節目を臨みながら、丹後のこれまでの尊い歴史の歩みをふりかえり、そして温故知新、丹後の豊かな未来づくりの中に丹後の尊い歴史と偉大な歴史資源を精一杯生かさせていただけるまちづくりを進めていきたいと思えます。